

令和2年神奈川県
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 原 理

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) … 

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、「児童福祉法」に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- 「児童福祉法」第18条の4には、「この法律で、保育士とは、第18条の18第1項の登録を受け、保育士の名称を用いて、(A) をもって、(B) 及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。」と記されている。
- 「児童福祉法」第48条の4には、「保育所は、当該保育所が主として利用される (C) に対してその行う保育に関し (D) を行い、並びにその行う保育に支障がない限りにおいて、乳児、幼児等の保育に関する相談に応じ、及び助言を行うよう努めなければならない。」と記されている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	深い愛情	児童の保育	保育関係団体	情報の提供
2	深い愛情	幼児教育	保育関係団体	講習会
3	専門的知識及び技術	児童の保育	地域の住民	情報の提供
4	専門的知識及び技術	児童の保育	保育関係団体	講習会
5	専門的知識及び技術	幼児教育	地域の住民	講習会

問2 次の文の（ A ）～（ C ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 「児童の権利に関する条約」第3条1には、「児童に関するすべての措置をとるに当たっては、公的若しくは私的な社会福祉施設、裁判所、行政当局又は立法機関のいずれによって行われるものであっても、児童の（ A ）が主として考慮されるものとする。」と記されている。
- ・ 「保育所保育指針」第5章「職員の資質向上」の1「職員の資質向上に関する基本的事項」（1）「保育所職員に求められる専門性」には、「子どもの（ A ）を考慮し、（ B ）に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の（ C ）、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となる。」と記されている。

（組み合わせ）

	A	B	C
1	最善の利益	人権	倫理観
2	最善の利益	人権	保育観
3	最善の利益	環境	保育観
4	生きる権利	人権	保育観
5	生きる権利	環境	倫理観

問3 次の文は、「児童福祉法」第24条の一部である。(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

(a) 都道府県は、この法律及び(b) 子ども・子育て支援法の定めるところにより、(c) 保護者の労働又は疾病その他の事由により、その監護すべき乳児、幼児その他の児童について保育を必要とする場合において、次項に定めるところによるほか、当該児童を保育所（中略）において(d) 保育する措置を採らなければならない。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	×	×
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問4 次の文は、「子ども・子育て支援新制度」に関する記述である。適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 2015（平成27）年に施行された「子ども・子育て関連3法」とは、「子ども・子育て支援法」「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律」「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の総称である。
- 2 子ども・子育て支援新制度では、保育所、幼稚園、認定こども園を通じた共通の給付（私学給付）と小規模保育等への給付（地域型保育給付）が創設された。
- 3 認定こども園の類型は、幼保連携型、保育所型、地方裁量型の3つである。
- 4 地域型保育給付の対象となるのは、小規模保育事業、病児保育事業、居宅訪問型保育事業、事業所内保育事業である。
- 5 「地域子ども・子育て支援事業」は、就学前の子どもの子育て支援に限定して行われている。

問5 次の文は、一時預かり事業に関する記述である。(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

「児童福祉法」第6条の3に、「一時預かり事業とは、家庭において保育（中略）を受けることが一時的に困難となつた (a) 児童又は幼児について、(b) 厚生労働省令で定めるところにより、(c) 主として保育時間の終了後において、保育所、(d) 認定こども園（中略）その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業をいう。」と記されている。

(組み合わせ)

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問6 次の文は、幼児教育・保育施設に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」(昭和23年厚生省令第63号)第32条によれば、満2歳以上の幼児を入所させる保育所には、保育室又は遊戯室、屋外遊戯場、調理室及び便所を設けることとされている。その場合、屋外遊戯場については、園舎と隣接している必要があり、保育所の付近に代わるべき場所があっても隣接していなければ認められないとされている。
- 2 「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」(昭和23年厚生省令第63号)第34条によれば、保育所における保育時間は、1日につき8時間を原則とし、その地方における乳幼児の保護者の労働時間その他家庭の状況等を考慮して、保育所の長がこれを定めることとされている。
- 3 「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」(昭和23年厚生省令第63号)第35条によれば、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とし、その内容については、厚生労働大臣が定める指針に従うこととされている。
- 4 「学校教育法施行規則」第37条には、「幼稚園の毎学年の教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39週を下つてはならない。」と記されている。
- 5 「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」第2条第7項には、「幼保連携型認定こども園」を設置する目的の一つとして「保護者に対する子育ての支援」が明示されている。

問7 次の文は、障害のある子どもの保育に関する記述である。不適切な記述を一つ選
びなさい。

- 1 保育士等は、特別な配慮を必要とする子どもに対して、子どもの保育所の生活の中で考えられる育ちや困難の状態を理解することが大切である。
- 2 保育士等は、特別な配慮を必要とする子どもとの関わりにおいて、個に応じた関わりと集団の中の一員としての関わりを大事にしながら、職員相互の連携の下、組織的かつ計画的に保育を展開するよう留意する。
- 3 特別な配慮を必要とする子どもの個別の指導計画を作成する際は、その子どもの特性や能力に応じて、週単位の計画を細やかに設定するのではなく、1年単位を目安におおまかな計画を作成するようにする。
- 4 障害や発達上の課題のある子どもの保護者や家庭と連携する際には、子どもの困難な状況だけでなく、得意なこと等も含めて保育所と家庭での生活の状況を伝え合うことが大切である。
- 5 障害のある子どもの保育に当たっては、専門的な知識や経験を有する地域の児童発達支援センター・児童発達支援事業所・児童発達支援を行う医療機関などの関係機関と連携し、互いの専門性を生かしながら、子どもの発達に資するような取組みをしていくことが大切である。

問8 次の文のうち、「保育所保育指針」第4章「子育て支援」の1「保育所における子育て支援に関する基本的事項」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 保護者に対する子育て支援を行う際には、各地域や家庭の実態等を踏まえるとともに、保護者の(a) 気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、(b) 専門家の意見を尊重すること。
- ・ 保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子どもの(c) 成長に気付き (d) 子育ての責任を感じられるように努めること。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問9 次の文は、諸外国の保育に貢献をした人物に関する記述である。(A)～(D)
にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ スウェーデンの社会批評家・女性解放論者である (A) は、著書『児童の世紀』(1900年)の中で、「20世紀は子どもの世紀である」と宣言した。
- ・ アメリカの哲学者・教育学者である (B) は、1896年にシカゴ大学附属の「実験学校」を設置した。子どもを学習の主体ととらえ、主体と環境の相互作用を経験と呼び、経験の再構成の連続的過程を教育の本質とした。著書に『学校と社会』、『民主主義と教育』等がある。
- ・ 1910年代のイギリスで、(C) は、「戸外保育学校」(Open-air Nursery school)を創設した。そこでは、保健・給食・午睡・戸外遊び・生活指導などを重視して、午前8時から午後5時半まで保育し、後の「保育学校」普及の基礎となった。
- ・ イタリアで最初の女性医学博士である (D) は、知的障害児の治療・教育の研究・実践を行い、その教育方法を健常児にも適用した。ローマのスラム街サン・ロレンツォの「子どもの家」で彼女が開発した教育遊具である「感覚教具」や家事仕事である「実生活の訓練」などを通して教育実践を行った。

【語群】

ア モンテッソーリ (Montessori, M.)	イ フレーベル (Fröbel, F.W.)
ウ オーエン (Owen, R.)	エ デューイ (Dewey, J.)
オ マクミラン (McMillan) 姉妹	カ ヘファナン (Heffernan, H.)
キ ハウ (Howe, A.L.)	ク エレン・ケイ (Key, E.)

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | キ | エ | ウ | ア |
| 2 | キ | エ | オ | ア |
| 3 | キ | カ | ウ | イ |
| 4 | ク | エ | オ | ア |
| 5 | ク | カ | オ | イ |

問 10 次の文は、日本の保育の歴史に関する記述である。(A) ~ (C) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- (A) は、1871 (明治4) 年、アメリカ人のキリスト教婦人宣教師メリー・プライン (Pruyn, M.)、ジュリア・クロスビー (Crosby, J.)、ルイス・ピアソン (Pierson, L.) によって横浜に創られた施設である。横浜開港にあたり、外国人と日本人との間に生まれた子どもと日本人の女子に対するキリスト教主義の教育と保護を目的としたものである。
- 橋詰良一は、1922 (大正 11) 年、大阪市郊外の池田に (B) を開設した。ここでは、大自然の中で子どもたちを自由に遊ばせるために、自動車で子どもたちを連れ出し露天保育を行った。
- 江戸時代後期の農政学者、医者、蘭学・国学者である佐藤信淵は、1848 年、『垂統秘録』において、乳幼児を保育する「(C)」と、それ以上の年齢の子どもを保育する「遊児廠」の施設保育を構想した。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	キリスト教婦人矯風会	家なき幼稚園	幼稚小学
2	キリスト教婦人矯風会	愛珠幼稚園	慈育館
3	亞米利加婦人教授所	家なき幼稚園	幼稚小学
4	亞米利加婦人教授所	愛珠幼稚園	幼稚小学
5	亞米利加婦人教授所	家なき幼稚園	慈育館

問 11 次の文のうち、「保育所保育指針」第 1 章「総則」の 1 「保育所保育に関する基本原則」(1)「保育所の役割」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

保育所は、児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 39 条の規定に基づき、(a) 保育に欠ける子どもの保育を行い、その (b) 健全な心身の発達を図ることを目的とする (c) 児童厚生施設であり、(d) 地域の子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問 12 次の文は、「保育所保育指針」第 2 章「保育の内容」の一部である。(A) ～ (E) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

この章に示す「ねらい」は、第 1 章の 1 の (2) に示された保育の (A) をより具体化したものであり、子どもが保育所において、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、保育を通じて育みたい (B) を、子どもの生活する姿から捉えたものである。また、「(C)」は、「ねらい」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものである。

保育における「養護」とは、子どもの (D) 及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、「(E)」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である。

【語群】

ア 基本原則	イ 意欲・協調性	ウ 内容	エ 内容の取扱い
オ 資質・能力	カ 生命の保持	キ 目標	ク 領域
ケ 健康増進	コ 教育	サ 保育	

(組み合わせ)

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 1 | ア | イ | エ | ケ | コ |
| 2 | ア | オ | ク | カ | コ |
| 3 | エ | オ | ク | ケ | サ |
| 4 | キ | オ | ウ | カ | コ |
| 5 | キ | イ | エ | ケ | サ |

問 13 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

保育所に入園して間もない3歳のK君は、登園すると、保育士のところにやってきて手を握ってくる。保育士はK君の手を握り、手をつないで園内の子どもたちの様子を見に行く。園庭では、子どもたちがドッジボールをやっている。そのすぐ近くで、3歳のL君、M君、N君が、横並びにござの上に寝転がり、もう一枚のござを体の上にかけている。ごそごそ動きながらも笑い声が聞こえる。「楽しそうね」と保育士が声をかけると、ござに潜っていたL君が顔を出し「リスのお家なの」と笑顔で答える。L君の隣からM君とN君が顔を出すと、L君、M君、N君は顔を見合わせ笑い、また、ござの中に潜り込む。K君はその様子をじっと見ている。

【設問】

「保育所保育指針」第1章「総則」の2「養護に関する基本的事項」及び第2章「保育の内容」の3「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」に照らし、保育士の対応として最も不適切なものを一つ選びなさい。

- 1 K君がどのような思いでいるのかはわからないが、まずは、保育士が、L君、M君、N君に対し「K君も一緒にいれてもらえる？」と聞いていく。
- 2 すぐわきでドッジボールをしていることをL君、M君、N君に知らせ、状況をみながら場所の移動の提案をする。
- 3 K君の様子をみながら、K君と共にL君、M君、N君の近くで過ごせるようにする。
- 4 L君、M君、N君が日ごろ遊んでいる素材が、すぐ使える環境にあるかを確認していく。
- 5 子ども同士が共に過ごすことの喜びを味わえる時間をとれるように見守っていく。

問 14 次の文は、「保育所児童保育要録」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 「保育所児童保育要録」は、小学校において子どもの理解を助け、育ちを支えるための資料として簡潔にまとめたものである。
- B 「保育所児童保育要録」は、保育所の生活を通して一人一人の子どもが育ってきた過程を振り返り、保育における援助の視点や配慮を踏まえ、その育ちの姿を的確に記録することが必要である。
- C 「保育所児童保育要録」は、個人情報であることから、保育所から直接、就学先の小学校に手渡すことが義務付けられている。
- D 「保育所児童保育要録」は、保育所や子どもの状況などに応じて柔軟に作成し、一人一人の子どもによさや全体像が伝わるよう工夫して記す。
- E 「保育所児童保育要録」の送付については、記載内容に異を唱える保護者がいることを踏まえ、保護者に周知せずに送付することが望ましい。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	○
2	○	○	×	○	×
3	○	×	○	○	×
4	×	○	○	×	○
5	×	×	×	○	○

問 15 次の文は、「保育所保育指針」第 1 章「総則」の 3「保育の計画及び評価」(2)「指導計画の作成」の一部である。(A) ～ (D) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

指導計画の作成に当たっては、第 2 章及びその他の関連する章に示された事項のほか、子ども一人一人の発達過程や状況を十分に踏まえるとともに、次の事項に留意しなければならない。

- ・ 3 歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、(A) な計画を作成すること。
- ・ 3 歳以上児については、(B) の成長と、子ども相互の関係や協同的な活動が促されるよう配慮すること。

(略)

指導計画においては、保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、(C) の連続性、(D) などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定すること。また、具体的なねらいが達成されるよう、子どもの生活する姿や発想を大切にしながら適切な環境を構成し、子どもが主体的に活動できるようにすること。

【語群】

ア 季節の変化	イ 具体的	ウ 個	エ 個別的	オ 集団
カ 生活	キ 発達	ク 地域の状況		

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | イ | ウ | カ | ア |
| 2 | イ | オ | キ | ク |
| 3 | エ | ウ | カ | ア |
| 4 | エ | ウ | キ | ア |
| 5 | エ | オ | カ | ク |

問 16 次の文は、「保育所保育指針」第 1 章「総則」の 3「保育の計画及び評価」(4)「保育内容等の評価」の一部である。(A)～(D)にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 保育所は、保育の質の向上を図るため、(A)や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を(B)よう努めなければならない。
- ・ 保育所が自己評価を行うに当たっては、地域の実情や(C)の実態に即して、適切に評価の観点や項目等を設定し、全職員による共通理解をもって取り組むよう留意すること。
- ・ 設備運営基準第 36 条の趣旨を踏まえ、保育の内容等の評価に関し、(D)等の意見を聴くことが望ましいこと。

【語群】

ア 公表する	イ 子ども	ウ 保護者の評価
エ 職員	オ 専門家	カ 振り返る
キ 保育の計画の展開	ク 保護者及び地域住民	ケ 保育所

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | ウ | ア | イ | エ |
| 2 | ウ | カ | ケ | オ |
| 3 | キ | ア | イ | ク |
| 4 | キ | ア | ケ | ク |
| 5 | キ | カ | ケ | エ |

問 17 次の文は、「保育所保育指針」第 5 章「職員の資質向上」の 1 「職員の資質向上に関する基本的事項」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 職員がもつべき倫理観の具体的な内容については、職種ごとの関係団体において、それぞれの専門性を踏まえた倫理綱領などが定められているが、保育士については、全国保育士会において、「全国保育士会倫理綱領」が定められている。
- B 保育所の職員は、その言動が子どもあるいは保護者に大きな影響を与える存在であることから、特に高い倫理観が求められる。
- C 一人一人の職員が備えるべき知識、技能、判断力、対応力及び人間性は、日頃の保育における言動全てを通して自然と表れるものではなく、時間や場所、対象を限定して発揮されるものである。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	×
4	×	○	○
5	×	×	×

問 18 次の文のうち、「保育所保育指針」第 5 章「職員の資質向上」の 4「研修の実施体制等」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 保育所においては、当該保育所における保育の課題や各職員のキャリアパス等も見据えて、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた(a) 体系的な研修計画を作成しなければならない。
- ・ 外部研修に参加する職員は、自らの専門性の向上を図るとともに、保育所における保育の課題を理解し、その(b) 解決を实践できる力を身に付けることが重要である。また、研修で得た知識及び技能を(c) 他の職員と共有することにより、保育所全体としての保育実践の質及び専門性の向上につなげていくことが求められる。
- ・ 施設長等は保育所全体としての保育実践の質及び専門性の向上のために、研修の受講は(d) ミドルリーダーを中心に行われるよう、配慮する必要がある。また、研修を修了した職員については、その職務内容等において、当該研修の成果等が適切に勘案されることが望ましい。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	○	×	○

問 19 次の文のうち、「保育所保育指針」第 2 章「保育の内容」の 2 「1 歳以上 3 歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」(1)「基本的事項」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

この時期においては、歩き始めから、歩く、走る、(a) スキップなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、(b) 移動の自立のための身体的機能も整うようになる。つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、(c) 衣類の着脱なども、保育士等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明瞭になり、語彙も増加し、自分の意思や欲求を(d) 言葉で表出できるようになる。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問 20 次の文は、厚生労働省がまとめた「保育所等関連状況取りまとめ（平成 31 年 4 月 1 日）」に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 保育所等利用定員は前年と比べ増加している。
- 2 保育所等を利用する児童の数は前年と比べ増加している。
- 3 待機児童数は前年と比べ増加している。
- 4 定員充足率（利用児童数÷定員）は前年と比べ減少している。
- 5 年齢区分別待機児童数では、低年齢児が全体の約 9 割を占め、そのうち、特に 1・2 歳児が多い。